

2021年12月21日

東京家政学院大学 御中

株式会社リアセック

東京家政学院卒業生調査報告(サマリー)

【調査概要】

調査目的：卒業後の活躍状況や貴学教育に対する評価・改善策等を調査し、教育成果を把握すると共に、今後の教育内容の改善、教育目標の見直しに役立つ客観データを収集する

調査対象：東京家政学院大学卒業生（2013年度、2015年度、2017年度卒の3世代）

調査方法：ハガキにて回答依頼、WEB回答

調査期間：2021年9月22日(水)～10月17日(日)

発送数：1358名(初回とリマインドで対象者に計2回発送)／不達数159名

有効回答数：257人(アンケートフォームへのアクセス数は316名)

有効回答率：21.4% (母数はハガキ不達数159件を除いた1199名で積算)

インセンティブ発送数：257名(完全回答者に提供)

■回収率から見える事

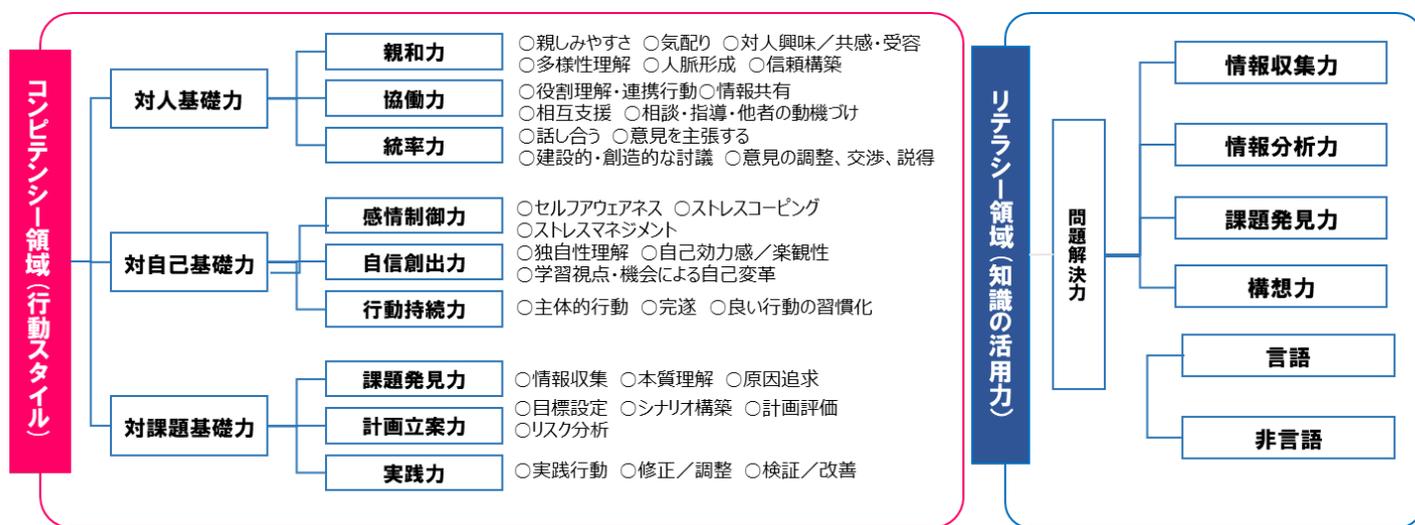
回答依頼ハガキ2回送付、完全回答者にはインセンティブ(Amazonギフトコード500円分)の提供も功を奏してか、平均的な回収率は多大学の傾向よりも上回る。(弊社他大学の回収率平均は約15%)。

但し、不達のハガキも全体の約12%を占めている。今後のこのような取り組みの基盤となるデータベースを構築するためにも、卒業時に連絡先(電話番号やメールアドレス)等を把握し、より卒業生とのコンタクトを取りやすい状態を作ることも視野に入れて対策をすることが望ましい。

【回答内訳】

	卒業学科					
	全体	1.現代生活学部 現代家政学科	2.現代生活学部 健康栄養学科	3.現代生活学部 生活デザイン学科	4.現代生活学部 児童学科	5.現代生活学部 人間福祉学科
全体	290	68	88	70	57	7
卒業年度別						
1. 2014年3月卒 (2014年9月卒)	87	14	30	24	17	2
2. 2016年3月卒 (2016年9月卒)	98	20	29	29	16	4
3. 2018年3月卒 (2018年9月卒)	105	34	29	17	24	1
卒業学科別						
1.現代生活学部 現代家政学科		68	0	0	0	0
2.現代生活学部 健康栄養学科		0	88	0	0	0
3.現代生活学部 生活デザイン学科		0	0	70	0	0
4.現代生活学部 児童学科		0	0	0	57	0
5.現代生活学部 人間福祉学科		0	0	0	0	7

【参考】弊社の能力フレーム(社会で求められる基礎力を MECE で捉えております。)



【Q10 の回答内訳】(報告書 P97)

Q10. 学生生活を通して、総合的に成長した実感を感じられましたか。 ※必須回答

項目	回答	
1.とても感じられた	19.71%	55
2.やや感じた	58.42%	163
3.どちらともいえない	14.34%	40
4.あまり感じなかった	6.45%	18
5.全く感じなかった	1.08%	3
回答計		279
離脱計		37

→「とても+やや」の成長を感じている層は 78.13% 他大学(女子大)と比べるとやや高い傾向があります。(約 70%)

【Q15 の回答内訳】(報告書 P113)

Q15. 大学生活に対する総合的な満足度として、最も近いものを1つお選びください。 ※必須回答

項目	回答	
1.とても満足している	29.09%	80
2.やや満足している	48.73%	134
3.どちらともいえない	13.09%	36
4.あまり満足していない	5.45%	15
5.全く満足していない	3.64%	10
回答計		275
離脱計		41

→「とても+やや」の成長実感を感じている層は 77.82% 他大学(女子大)と比べるとやや高い傾向があります。(約 70%)

【ポートフォリオ分析(全体)】(報告書 P10)

社会人となり必要度が高く感じていて、在学中に修得できたと感じている項目(強み)は

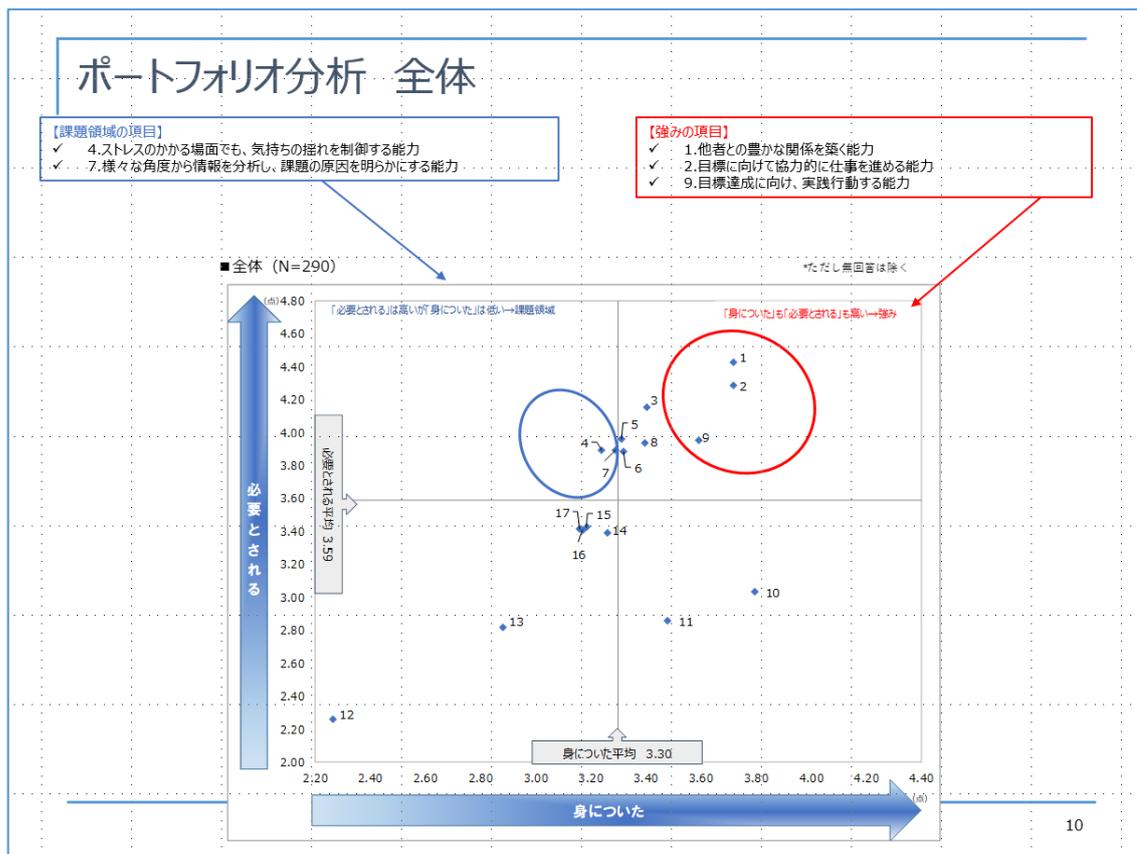
- ✓ 1.他者との豊かな関係を築く能力
- ✓ 2.目標に向けて協力的に仕事を進める能力
- ✓ 9.目標達成に向け、実践行動する能力

などの対人基礎力要素や、対課題基礎力であった。

社会人となり必要度が高く感じていて、在学中に修得できていなかったと思う項目(課題)は

- ✓ 4.ストレスのかかる場面でも、気持ちの揺れを制御する能力
- ✓ 7.様々な角度から情報を分析し、課題の原因を明らかにする能力

などの対自己基礎力要素や、対課題基礎力(リテラシー領域)であった。



【相関分析】(報告書 P21)

表側に「取得度」、表頭に「成長実感」、「満足度」、「後輩推奨度」の相関関係を見ると、多くの項目で相関関係が見受けられた。

相関係数

【全体】N=290 (ただし各設問無回答は除く)

		Q10. 成長実感	Q15. 大学生活に対する総合的な満足度	Q16. 後輩への本学推薦
Q 8 - 2 修 得 度	1.他者との豊かな関係を築く能力	0.52**	0.5**	0.42**
	2.目標に向けて協力的に仕事を進める能力	0.47**	0.49**	0.41**
	3.場を読み、組織を動かす能力	0.39**	0.37**	0.33**
	4.ストレスのかかる場面でも、気持ちの揺れを制御する能力	0.36**	0.31**	0.3**
	5.前向きな考え方、やる気を維持する能力	0.56**	0.49**	0.44**
	6.主体的に動き、よい行動を習慣づける能力	0.52**	0.45**	0.39**
	7.様々な角度から情報を分析し、課題の原因を明らかにする能力	0.52**	0.43**	0.39**
	8.課題解決のための適切な計画を立てる能力	0.53**	0.45**	0.37**
	9.目標達成に向け、実践行動する能力	0.55**	0.47**	0.34**
	10.大学の専門科目で学んだ知識・技能	0.49**	0.46**	0.41**
	11.大学の教養科目で学んだ知識・技能	0.46**	0.36**	0.41**
	12.外国語を使う能力	0.21**	0.11	0.14*
	13.数理的思考力とデータ分析・活用能力 (数理・データサイエンス、情報科学Iなど)	0.33**	0.26**	0.27**
	14.課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査・整理する能力	0.52**	0.37**	0.31**
	15.収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握する能力	0.52**	0.36**	0.34**
	16.現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定する能力	0.52**	0.37**	0.33**
	17.さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、具体化する能力	0.53**	0.37**	0.34**

【総括】

「各能力の修得度」と様々な要素の相関はどの項目も軒並み高い傾向がみられるが、とりわけ「成長実感」との相関は一段と高い傾向が見受けられ、改めて成長実感を促す事の重要性が示された。

今後の示唆として、

調査結果にみられるように「成長実感」=「できないことができるようになった」と認識する経験は大切なテーマであると同時に、自分が今どの程度成長しているのか「可視化」し、フィードバックする機会を在学生に与えていくことも重要である。

ルーブリック、アセスメントによるリフレクションの機会の提供で学生の成長を促し、その成果の可視化が、結果的に認証評価等でのエビデンスづくりにもつながると考えられる。